

2. 経営・社会

azbilグループは、世界水準の総合オートメーション企業として、「人を重視したCSR経営」を目標に掲げ、グループ横断的に様々な活動を展開しています。

ここでは、ステークホルダーからの信頼獲得に向けたazbilグループの取組みについてご紹介します。

経営・社会への取組み全般に関する情報は、Webページをご覧ください。→ <http://www.azbil.com/jp/csr/soc/index.html>



経営・社会

azbilグループのCSR経営	36
コーポレート・ガバナンス	37
リスクマネジメントとコンプライアンス	38
役員の紹介	39
お客さまとのかかわり	40
地域社会とのかかわり	41
社員とのかかわり	42

azbilグループのCSR経営



株式会社 山武
取締役 執行役員専務
佐々木 忠恭

azbilグループでは、企業の社会的責任を経営の重要課題と捉え、2010年度(2011年3月期)からの中期計画では、世界水準の総合オートメーション企業として、経済・環境・社会へ積極的に貢献するCSR経営の確立、実行に力を入れています。

Q: azbilグループのCSRとはどのようなものですか？

社会と企業の持続可能な発展を目指し、「基本的CSR」(コンプライアンス、リスクマネジメント、安全、品質、環境など、azbilグループが社会に存立する上で果たさなければならない基本的責務の遂行)と「積極的CSR」(本業を通じた社会への価値提供や自主的な社会貢献)を両輪として回しながら、azbilらしいCSRを実現させて社会へ貢献していくことです。

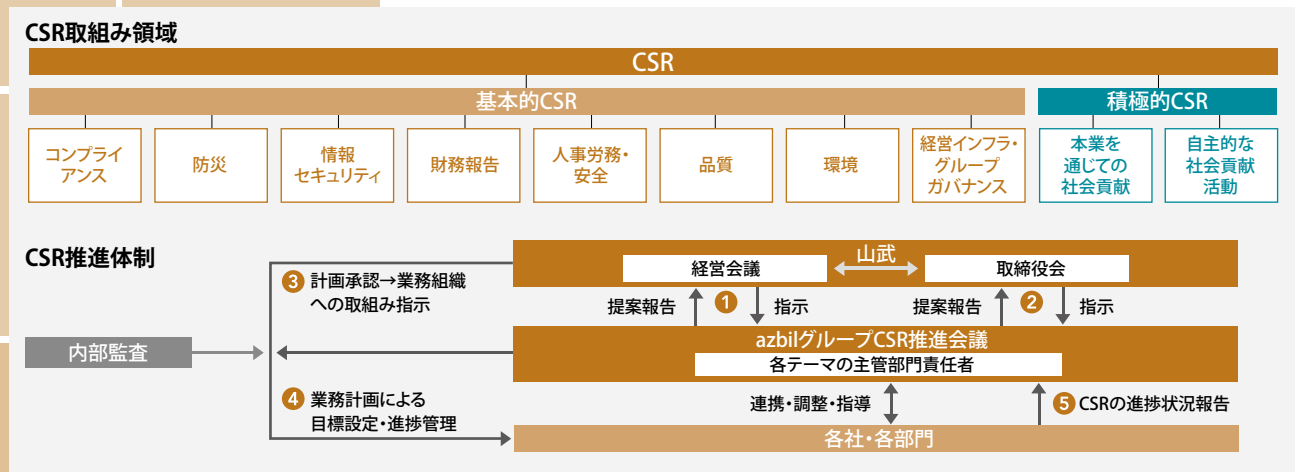
Q: CSR経営の取組み方針・目標はどのようなものですか？

中期計画「発展期」では、取組みを6つの基本テーマに分け、それぞれのゴールを掲げています。

- | | |
|---|---|
| <p>1. 高いコンプライアンス風土の構築
コンプライアンスが、意識だけでなく社員の行動として確実に実践され、重要なコンプライアンス問題が発生しない状況を構築します。</p> <p>2. リスク管理の行き届いた経営の実践
防災、情報セキュリティ、品質・PL、会計などの分野に加え、毎年経営を取り巻くリスクの洗い出しを行い、重要リスクに漏れなく対応します。</p> <p>3. 人を重視した経営の推進
社員の健康と安全、職場の活性化、人材の育成に努め、社員の力を引き出す制度・仕組みを導入し、人を重視したCSR経営の基盤を強化します。</p> | <p>4. 地球環境への貢献
グループ自らのCO₂排出量を削減するとともに、事業を通じて取引先、社会のCO₂排出量削減に積極的に貢献します。</p> <p>5. グループ経営の推進
グループのCSR経営方針の一体化をさらに進め、海外を含むグループ各社のリスク管理、経営管理、CSRを大幅にレベルアップします。</p> <p>6. 社会貢献の取組み強化
本業による社会貢献を進めるとともに、社員参加型の自発的な社会貢献活動を支援、推進します。</p> |
|---|---|

CSR推進体制

広範な領域にわたるCSR活動をグループ一体となって推進・展開するための体制として、azbilグループCSR推進会議を設けています。本会議はグループ各社のCSR推進担当役員と各テーマの本社推進主管部門をメンバーとして構成され、山武の取締役会に報告の上、CSR取組み計画の実行指示、結果評価を行い、活動全体のPDCAを回しています。



リスクマネジメントとコンプライアンス

リスクマネジメントとコンプライアンスは、azbilグループが社会から信頼を得て継続的に存続していく上でのCSR経営の根幹です。事業をとりまく様々なリスクの予防とコンプライアンスの浸透にグループを挙げて取り組んでいます。

リスクマネジメント

azbilグループトータルリスクマネジメント

グループのリスク対応力を強化するため、企業経営に重大な影響を与えるリスクを毎年網羅的・定期的に洗い出し、取締役会での審議を通じて、グループが一体となって対処すべき重要リスクを決めています。この取組みは導入後3年を経過したことから、社会環境の変化、法令・制度の変更、他社事例および東日本大震災の経験などを考慮し、対象とするリスク範囲を、より具体的な対策につながりやすくするよう再定義するとともに、リスク評価方法を見直すなどの改善を行いました。



株式会社山武 CSR推進グループ
村山 修(左)、渡辺 宏(右)

防災／事業継続計画

azbilグループは、国内全事業所内の危険箇所の徹底的な削減、新耐震設計基準建物への移転、事業継続計画の初動対応を加味した地震避難訓練の実施、安否確認システムの拡充、非常備蓄品の配備管理、通信手段の多重化などの防災対策に力を入れてきました。今回の東日本大震災では、事業所内での人命被害や重大なけがなどの発生は回避することができ、また被災した事業所へ各拠点から備蓄品を融通するなど、これまでの取組みの成果が見られました。今後は、全事業所の防災に関する緊急再点検、マニュアルの見直し、想定する地震リスクの見直しに伴う防災対策の強化などに取り組む予定です。

情報セキュリティ

情報セキュリティリスクへの対応については、2009年度(2010年3月期)に引き続きeラーニングを含めた情報セキュリティ教育の徹底、コンプライアンス意識調査で明らかとなった情報管理課題への対応、重要情報や個人情報の管理体制の整備などに取り組みました。

さらに、災害時であってもそのサービス運用レベルを大きく損なうことのないように、サーバーの再配置やバックアップ体制の見直しを実施しました。

コンプライアンス

行動指針・行動基準

azbilグループ理念を展開し、企業の公共性、社会的責任の遂行、公正な商取引の遵守、人間尊重の社会行動などの6項目で構成される「azbilグループ 企業行動指針」を定めています。

この企業行動指針を基に、遵法と倫理の観点から、ビジネス活動全般にわたり具体的なガイドラインとしてまとめた「azbilグループ 行動基準」を制定しています。

2010年度(2011年3月期)は、海外現地法人用に策定した行動基準に基づき、各国言語への翻訳、現地の法律や商習慣に基づく補足マニュアルの作成などを行い、中国・アジア地区への展開をほぼ完了したところです。

コンプライアンス推進体制

山武 CSR推進担当部門は、azbilグループにおけるコンプライアンスの浸透・徹底、全社教育を推進しています。また、CSR担当役員を委員長とする「azbilグループ 企業倫理委員会」を設置し、法令遵守や倫理面での取組み方針を決めるとともに、全社の事業所長や部門長をコンプライアンス責任者、グループ長をコンプライアンスリーダーと定め、各職場におけるコンプライアンスの浸透と徹底を図っています。

さらに、毎年グループ社員全員を対象にコンプライアンス意識調査を実施して課題を把握し、対策を講じています。

コンプライアンス教育

コンプライアンス教育は、役員、部門長・グループ長をはじめとして全社員に毎年実施しています。特に意識調査の結果から浮かび上がった課題については具体例を挙げて教育内容に反映させ、行動面への徹底を図っています。

さらに、今年度からは教育専任担当が直接全社員に対して教育を行う仕組みも取り入れ、教育体制の強化を図りました。



株式会社山武 教育専任担当
(左から) 田中 均、中村 昭雄、片山 勝巳、小倉 勉

役員紹介

2011年6月28日現在

取締役



代表取締役社長 執行役員社長
小野 聖二

CEO
azbilグループ全般統括、
グループ監査部、経営企画部 担当



取締役 執行役員専務
斉藤 清文

社長補佐
ビルディングオートメーション事業 担当
ビルシステムカンパニー社長



取締役 執行役員専務
佐々木 忠恭

azbilグループCSR、内部統制、施設・事業所、
人事部、内部統制推進部、財務部、管理部、
総務部、法務知的財産部、秘書室 担当



取締役 執行役員専務
猪野塚 正明

azbilグループ営業シナジー、
アドバンスオートメーション事業 担当
アドバンスオートメーションカンパニー社長



取締役 執行役員常務
菅禰 寛純

全社マーケティング、技術開発本部、
業務システム部 担当



取締役 執行役員常務
河合 真

azbilグループ生産機能 担当



取締役
安田 信*



取締役 (社外取締役)
ユージン リー



取締役 (社外取締役)
田辺 克彦

監査役

常勤監査役

松安 知比古
鋤崎 憲世

監査役 (社外監査役)

藤本 欣哉
朝田 純一
山本 和雄

執行役員

執行役員常務

大久保 利恒
国際事業、ドキュメント・プロダクション部 担当
国際事業推進本部長

廣岡 正

azbilグループ環境負荷改革、
ビルシステムカンパニー
マーケティング・開発 担当

國井 一夫

ホームコンフォート事業、
ビルシステムカンパニー経営管理 担当
ビルシステムカンパニー計装本部長

杉野 芳英

品質保証、安全審査部 担当
技術開発本部長

不破 慶一

サービス事業 担当
ビルシステムカンパニー東京本店長
ビルシステムカンパニー営業本部長

執行役員

吉田 壽夫

アドバンスオートメーションカンパニー
東京支社長

細谷 卓司

国際事業補佐、国際標準化 担当

玉寄 長務

azbilグループ購買機能 担当

山本 晃義

管理本部長

石黒 巧

ビルシステムカンパニー関西支社長

日高 謙二

アドバンスオートメーションカンパニー
事業営業 担当
アドバンスオートメーションカンパニー
営業本部長

村瀬 則夫

法務知的財産部長

清水 伸郎

アドバンスオートメーションカンパニー
関西支社長

宮澤 光晴

ビルシステムカンパニー
ファシリティマネジメント本部長

岩崎 雅人

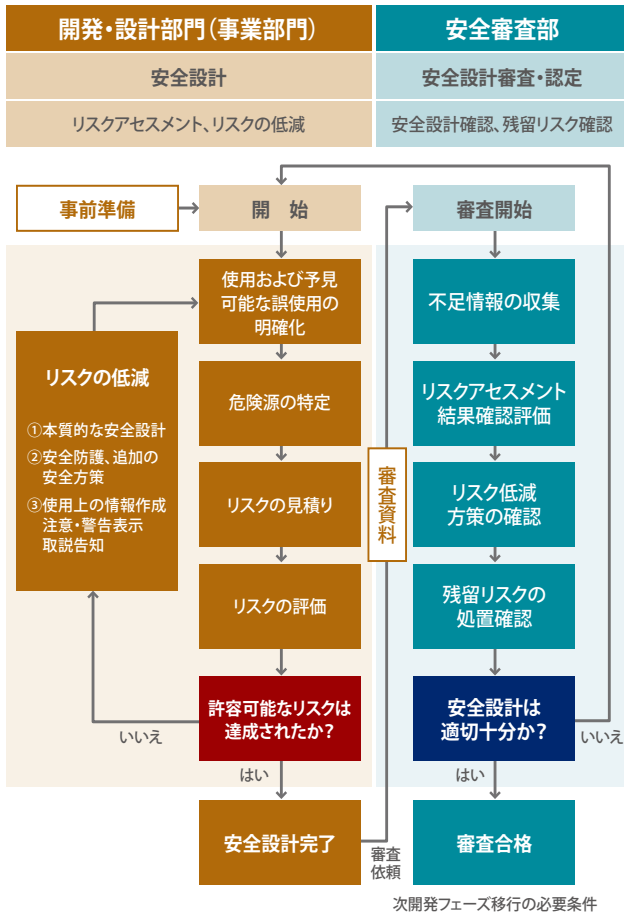
アドバンスオートメーションカンパニー
マーケティング・開発 担当
アドバンスオートメーションカンパニー
マーケティング部長

* 法令上は社外取締役に該当しませんが、当社入社後40年以上におよぶ国内外での豊富な経営経験と見識を有し、独立性の高い取締役であります

お客さまとのかかわり

azbilグループでは、お客さまに安心して使用していただける安全な製品を提供するために、開発の各段階において徹底した安全設計を実施しています。さらに、製品の安全を確かなものにするため、安全設計審査を重視しています。

安全設計と審査の実施プロセス



開発上流工程における安全設計の実施

「azbilグループ 行動基準」では、安全がすべてに優先されることを認識して、お客さまの立場に立って事故につながらないよう、製品の安全設計に取り組むことを定めています。

このため、安全な製品の提供に向けた最重要事項として、製品開発の上流工程である企画段階、各設計段階における周知な安全設計を実施します。

安全設計では、使用段階における製品事故の未然発生防止を目的として、リスクアセスメントにより製品ライフサイクルの各場面におけるリスクを分析考慮し、リスク低減設計により、必要となる安全資質を製品に創り込みます。

社内第三者機関による安全設計審査

グループ各社事業部門から独立した安全審査部門により、開発製品の安全設計審査が行われています。安全設計を行った製品担当事業部門は、社内安全設計認定制度に基づき安全設計審査を受審し、それに合格しないと、製品の開発ステップを進めることやリリースすることが制限される仕組みになっています。

製品に創り込まれた安全資質は、製品の安全が保たれる中では通常見えにくいものと考えられますが、お客さまに安心して使用していただける安全な製品の提供に向けて、安全設計の履行に努めていきます。

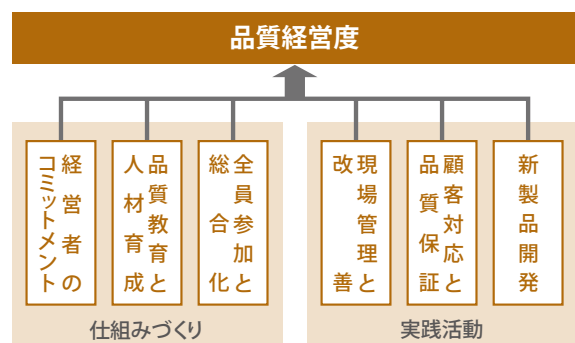
azbilの品質経営

azbilグループでは、お客さま志向の製品企画・開発、品質第一のものづくりおよび全員参加による現場改善などを中心とした品質経営に日々磨きをかけています。

その進捗を確認しさらに高見を目指すために、6年前から毎年実施されている品質経営度調査(主催:日本科学技術連盟)に参画しています。2010年度(2011年3月期)は自社最高位の26位(参加249社)にランクされました。

私たちは、今後も品質経営で、お客さまから信頼され、満足していただける製品・サービス・ソリューションを提供し続けます。

品質経営度調査の概念



地域社会とのかかわり

私たちは社会の一員として、「人」、「暮らし」、「社会」、「地球」の分野において、「人を中心とした」社会貢献の推進を目指しています。事業を通じた社会への貢献のほか、会社の文化・風土として根付くような、社員参加型の社会貢献活動を自主的に展開しています。

2010年度(2011年3月期)の活動

第5回湘南国際マラソン



azbilグループ 社員ランナー

2006年度(2007年3月期)から協賛している湘南国際マラソンへの参加も2010年度で5回目となりました。大会規模は2万3千人を超え、azbilグループからはランナーとボランティアを含め200人を超える社員が参加し、大会を盛り上げました。

特に環境活動グループ「エコ・フレンドシップ」において、山武は第1回目からリーダー企業として活動を推進しています。今回は「環境に対する気持ちを育てる」大会として、湘南の海をテーマにリサイクル資材を使ったエコクラフト指導、環境を題材にしたエコクイズなどを実施し、来場者に大好評を得ました。

また、当日の会場における参加企業をとりまとめ、ごみの分別回収活動を行いました。分別回収した資源の計測や大会全体の使用エネルギー量を算出し、CO₂排出量として大会開催が環境に与える影響を把握するための環境負荷分析を行いました。



ボランティアによるごみ分別活動

各事業所における自発的な取組み

● 福島県白河市街の清掃

白河精機の社員と家族130人が、会社周辺の通勤道路の清掃を行いました。雨にもかかわらず、前年度よりも多い参加者が、和気あいあいと清掃に励みました。



● 東日本大震災への支援

azbilグループとその社員・役員から総額約6,800万円の義援金およびボランティア活動資金や救援物資を被災地に送りました。



● 伊勢原大山の清掃

伊勢原工場の社員および家族120人が15回目となる丹沢山地大山の清掃に参加しました。当日は晴天にも恵まれ、山道も苦とせず終日清掃に努めました。



「azbil みつばち倶楽部」

社会貢献推進チームは、社員参加型の自発的な社会貢献活動を支えるため、2009年に「azbil みつばち倶楽部」を設立しました。一口100円から参加でき、会員の意思で支援先を決定しています。



支援先例：身体障がい者の登山協力に対する支援「山岳集団ベルククラブ」

2010年10月に第1回支援先決定投票を行い、盲導犬育成、発達障がい者への就労支援、視覚障がい者への朗読、日本古来の騎馬術復元、難民移民などへの医療支援、介護者同士の交流、湖沼の水質浄化など、全12団体を選出し支援金を寄付しました。また、このたびの東日本大震災に対し、会員の総意として、100万円を中央共同募金会にボランティア活動資金として寄付しました。



azbilグループ社会貢献推進チーム

社員とのかかわり

「人を中心としたオートメーション」の理念の下、誰もが安心して働ける、健康で明るく快適な職場環境を作ります。また、女性・グローバル・障がいのある方など様々な視点から雇用機会創出・人材活用・育成に努め、azbilグループの中期計画「発展期」に必要な人材を確保し、育成します。

明るくいいき働ける健康な職場づくり

誰もが安心して明るくいいきと働ける職場の基本である社員の健康維持・向上のため、社員の健康維持・管理を担う統括産業医制度、健康管理システム、相談窓口(はーとふる



健康な職場づくりのスタッフ

ステーション)を導入しました。また、社員の心の健康維持・向上のため、すべての管理職が社員の心のケアをできる体制づくりを目指しています。

相互信頼に基づく活発なコミュニケーション

日々の仕事をチームワークで効率よく進めるためには相互信頼に基づく活発なコミュニケーションが必要です。この当たり前のことを当たり前に行える企業体質・企業風土を「発展期」の基盤とすべく、グループ単位での朝のミーティングや10月1日“azbilの日”の「azbilスマイルティーパーティー」などを実施しています。



ベトナム現地法人のスマイルティーパーティー

「発展期」を支える人材の確保・育成

名実ともに世界トップクラスの企業グループの仲間入りを果たすために様々な人材の確保・育成に努めています。

女性活躍

女性活躍の中心となる人材を、業種を越えた他社との交流、研修の場への参加などで積極的に育成に努めています。これらの人材がネットワークを構築し、連携をとりながら女性活躍推進を担っています。



女性活躍 国際研修に参加

グローバル人材活用・育成

「発展期」には国際事業の伸長を目指し、グローバル人材の活躍の場がさらに増えます。積極的に海外の方々に雇用機会を提供するとともに、仕事に必要な知識や技術を学ぶ場を充実させています。



東京での海外現地法人管理職研修

知的障がい者を雇用する特例子会社 山武フレンドリー

山武フレンドリーは、1998年4月にazbilグループの一員として、知的障がいを持つ人が社員の主役となって生き生き*と働ける職場環境を作ることを目的に創業しました。仕事を通じた能力向上と自己実現を支援し、その成果で社会に貢献することを経営方針としています。品質・価格・納期でお客様にご満足いただき、「お客さまから声をかけていただいた仕事は断らない」という姿勢で仕事の量的拡大を図るとともに、「仕事の質の向上」と「スピード」に挑戦しています。

* 社員の大切な生活の場という思いを込めて、この表記を使っています



山武フレンドリー社員の作業風景

山武フレンドリー
(左から)
取締役総務部長 小野口 富士男
総務部総務課長 神谷 正子
総務部伊勢原総務課長 榎本 敏彦

